

前橋市歴史的風致維持向上計画推進の方向性（案）

第6回前橋市歴史まちづくり協議会資料

都市計画部都市計画課 2025.10

○前橋市

1 計画策定の目的

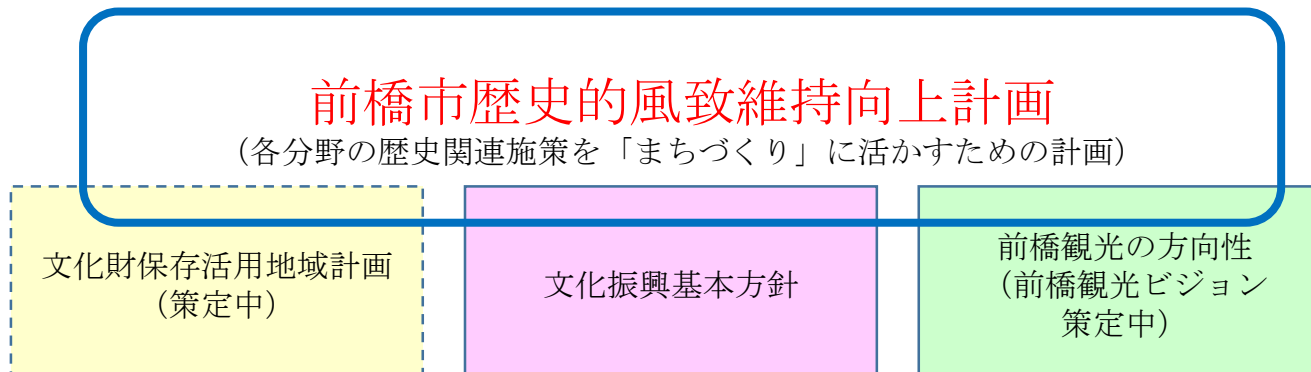
本市の誇りある歴史を顕彰し、後世へ語り継ぐのみならず、歴史上の「第五の危機」を乗り越え、質感の高い都市を実現するため、歴史文化を生かしたまちづくりの具体策として、歴まち計画を策定した。（令和4年12月国認定）

歴まち計画では、歴史的風致の維持及び向上を図るため、20事業を位置づけ、「前橋らしい歴史性」を感じられる街並み形成を進めている。

- ・計画期間：2023年度（令和5年度）～2032年度（令和14年度）【10年間】



- ・計画の関係性



2 現状

歴史的風致の維持向上に資する事業



1 調べる・魅せる・保全する
歴史的資源を調べ、見えるように整備し、保全する



2 揃える・整える
地区の歴史的実態に即した景観施策を実施する



3 高める・創出する
街並みにアクセントを創出して人の流れを生み出す

重点区域を対象とした事業

1-1 大手門可視化・出土品活用事業
令和2年に出土した大手門跡の保全と可視化整備を実施

1-2 酒井氏歴代墓地整備推進事業
歴史的価値を明らかにすべく各種調査・事務手続きを推進

1-4 未指定建造物等調査計画策定・実施事業
未指定建造物の調査計画の立案と文化財指定・登録を推進

1-6 歴史的建造物保全支援事業
特定要件を満たす建造物の外観保全に係る費用の助成を実施

1-7 歴史的建造物修理・復元等検討事業
滅失・移転した歴史的建造物の活用方法と事業化を検討

1-9 城下町・生系のまち AR・VR プロジェクト
歴史的建造物等をデジタル上で再現するシステム等の開発を検討

2-1 景観誘導ガイドライン策定事業
歴史的景観を創出するためのガイドラインの策定を検討

2-3 広瀬川河畔景観形成重点地区拡張事業
「広瀬川河畔景観形成重点地区」の対象範囲の拡張を実施

2-4 道路美装化・高質化事業
舗装の高質化等により歴史情緒を高める道路整備を実施

2-5 天狗岩用水周辺環境向上事業
天狗岩用水の環境向上に取り組む団体の支援を実施

3-1 前橋公園内歴史的拠点創出事業
公園の歴史性・回遊性向上に資する歴史的拠点の創出を検討

3-2 前橋駅周辺歴史的景観向上事業
駅周辺の歴史的景観を補強するための事業の立案を検討

3-3 ヒストリックランドマーク整備事業
旧町名を記した石碑や案内板の設置を検討

3-4 群馬総社駅西口開設事業
西口の開設と道路・駅前広場の整備、自由通路の整備を実施

3-5 観光受入環境整備事業
総社山王地区への来訪者の利便性向上に資する集客施設を整備

市全域を対象とした事業

1-3 文化財保存活用地域計画策定事業
文化財保護行政の方向等を示す文化財保存活用地域計画を策定

1-5 民俗芸能・祭礼行事等支援事業
民俗芸能や祭礼、地域行事などの活動に対する支援制度の立案

1-8 市民学芸員養成事業
「前橋学」の担い手となる人材育成とガイド等の実践の場の提供

1-10 前橋学ブックレット発行事業
前橋の歴史を後世に語り継ぐため、前橋学ブックレットを発行

2-2 前橋市景観計画改定事業
歴史的風致維持向上の阻害要因の規制等を盛り込んだ改定を実施

旧町名案内板



群馬総社駅舎イメージパース



郷土芸能大会



市民学芸員養成講座



前橋学ブックレット



◎既存事業 ●事業化済 ▲事業化予定 ★要検討

2 現状

① 計画事業の進捗

2032年度までの予定で、歴史的風致形成建造物（大型養蚕農家）改修支援や、旧町名案内板設置、赤城山景観ガイドライン策定など計画的に事業を進めている一方で、前橋城本丸御殿整備（前橋公園内歴史的拠点創出事業）、JR前橋駅旧駅舎復元（前橋駅周辺歴史的景観向上事業）、総社山王地区への集客施設整備（観光受入環境整備事業）といった旗艦的な事業には着手できていない。

ロードマップ（スケジュール）の目途が立たない状況がある。



前橋公園内歴史的拠点創出事業



前橋駅周辺歴史的景観向上事業



観光受入環境整備事業

2 現状

② 歴史まちづくり協議会（有識者）の意見【2025.5.19】

- ・ヒストリア前橋のオープンなど民間の動きが活発化しているが、歴史を今後のまちづくりにどう位置づけるのかははっきりしていない。
- ・クリエイティブシティ構想や民間の登録文化財などを把握し、その中で歴史まちづくりをどうしていくか、国、県、市の役割分担を調整して進めるべき。
- ・市の財政状況が厳しいのであれば、クリエイティブシティの整備費が出てくるなかで、そこに相乗りできるチャンスだと思う。
- ・戦略性が欠けている。本丸御殿などのハード整備事業は、本当にやるかどうかの議論で10年くらいかかる。そこに実際の予算をつけてやるとなると、淡々と進めても成就するまでに20年はかかったと思う。
- ・歴史まちづくりの核となるものは何なのか、本丸御殿がそうなのか旧前橋駅舎がそうなのか、色々議論すればいいし、計画に位置づけられている事業のうちの何を核とするのか、市民の感覚を燃えさせて、はじめて歴史まちづくりのムードが出てくる。
- ・ハード整備ができないとしても、皆がまちづくりに参加するとか、皆の文化財でなんとかやってみようという動きが出るだけでも凄いことだと思う。ある意味ではソフトの組織づくりで行けばいいと思う。
- ・建物を造るような事業は賛否両論があることなので、その議論をする事自体で、都市のあり方を皆さんが考えるようになる。そういった機運が高まるだけでも素晴らしいことだと思う。
- ・全てを市がやるというのは大変なので、いかに民間と協働するかということも大切である。できればそういう方向性について、次回の協議会には市としての考え方を示してほしい。



2 現状

③ ロードマップを示せない要因

○外的要因：世界情勢不安、物価高、資源高、人件費高 → 建設費高騰

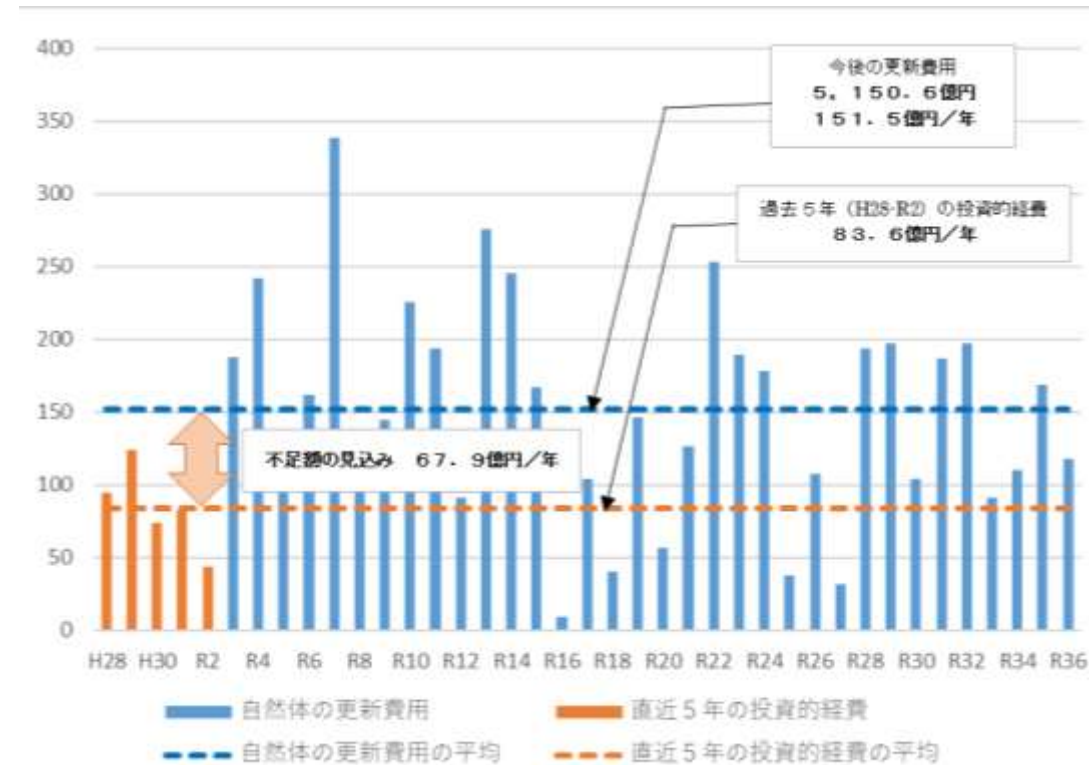
○内的要因：

前橋市の財政収支見通しでは、中期的な財源不足があり、公共施設の維持補修、管理など市民生活・活動に直結した事業を優先する必要があるため、新たな施設整備の合意形成には期間を要する。

○一事例（公共施設の更新費用推計）※出典：前橋市公共施設白書

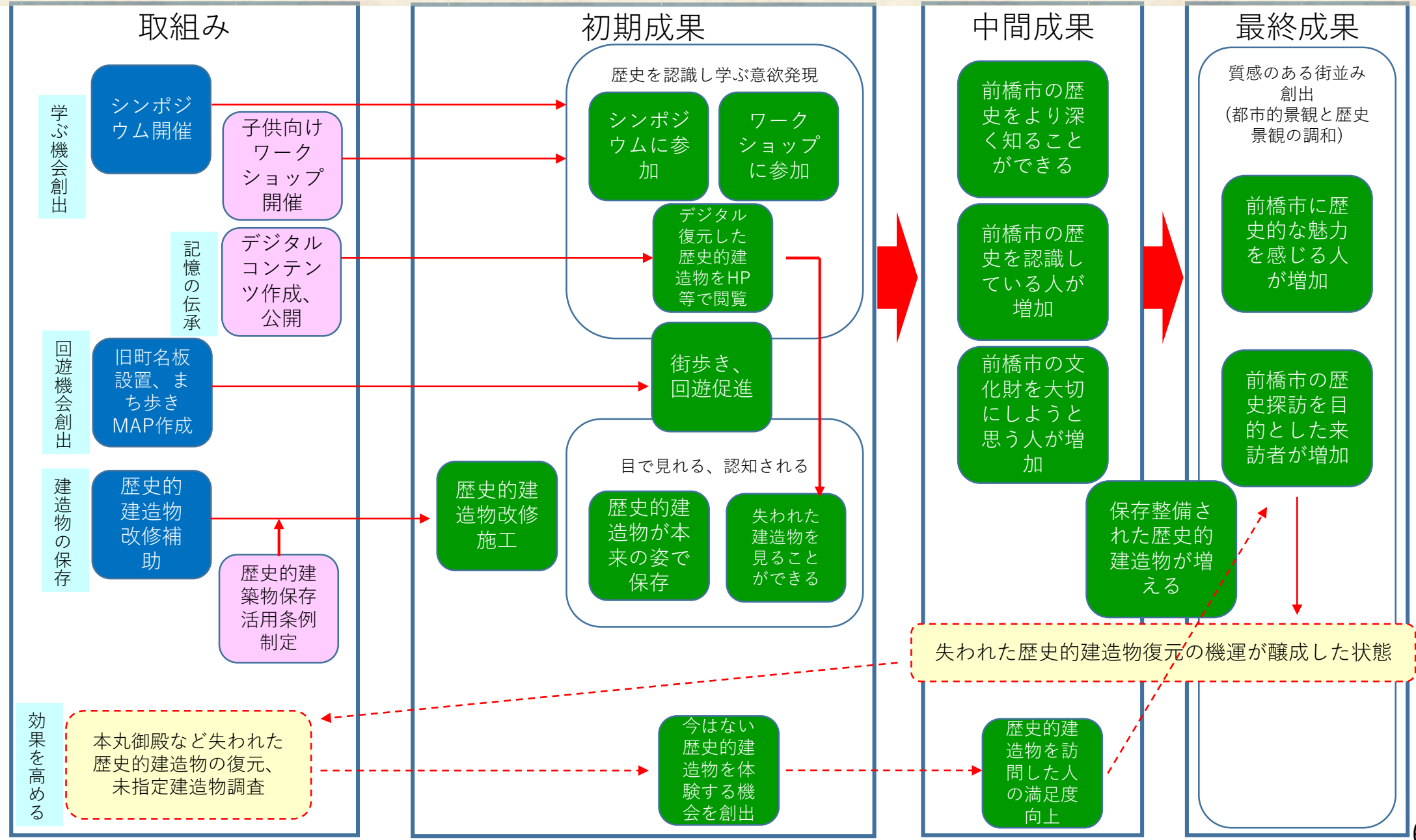
全国的に公共施設等の老朽化に伴い、維持管理費の増加や多額の更新経費が大きな財政負担となっている。

本市も例外でなく、現状の施設規模や施設数を維持することを前提として試算すると、令和36年度までに必要な更新費用は合計で5,150.6億円、年平均で151.5億円となり、現投資額（過去5年間の投資的経費）と比べ、年間で約1.8倍の費用が必要となり、年間で67.9億円の不足額が生じる見込みとなる。このまま公共施設の更新費用が増加し続けた場合、現在の行政サービスを維持し、持続可能な行政運営を進めていくことが難しくなることから、公共施設の適切な維持保全と財政負担の軽減を両立していく必要性が高まっている。



3 歴史まちづくりの推進ロジック（案）

事業効果を高める



4 今後の方向性（案）

・クリエイティブシティ構想などの施策と協調し、歴史的風致の維持向上に官民連携で取り組む将来像について、有識者を交え検討する。

・まずは、歴史まちづくり計画の重点区域（厩橋地区、総社及び総社山王地区）で、現存する歴史的建造物などの価値を高め、プロモーション（周知・発信）により、市内外の機運を高める。→※今あるもので今までにない価値を創造する。

・例えば、JR前橋駅から県庁までの区間を含む厩橋地区では、都市的な街区と歴史建造物の調和が前橋らしさであることから、国や県とも連携し、その場に相応しい歴史的建造物保全支援を優先する。

- ・総社及び総社山王地区においては、歴史的建造物保全支援に加え、象徴となる通路の美装化の進め方を研究する。



5 新たなまちづくりの流れ

○クリエイティブシティ構想の推進

【県庁～前橋駅クリエイティブシティ構想イメージパース】

